

栄町の歴史

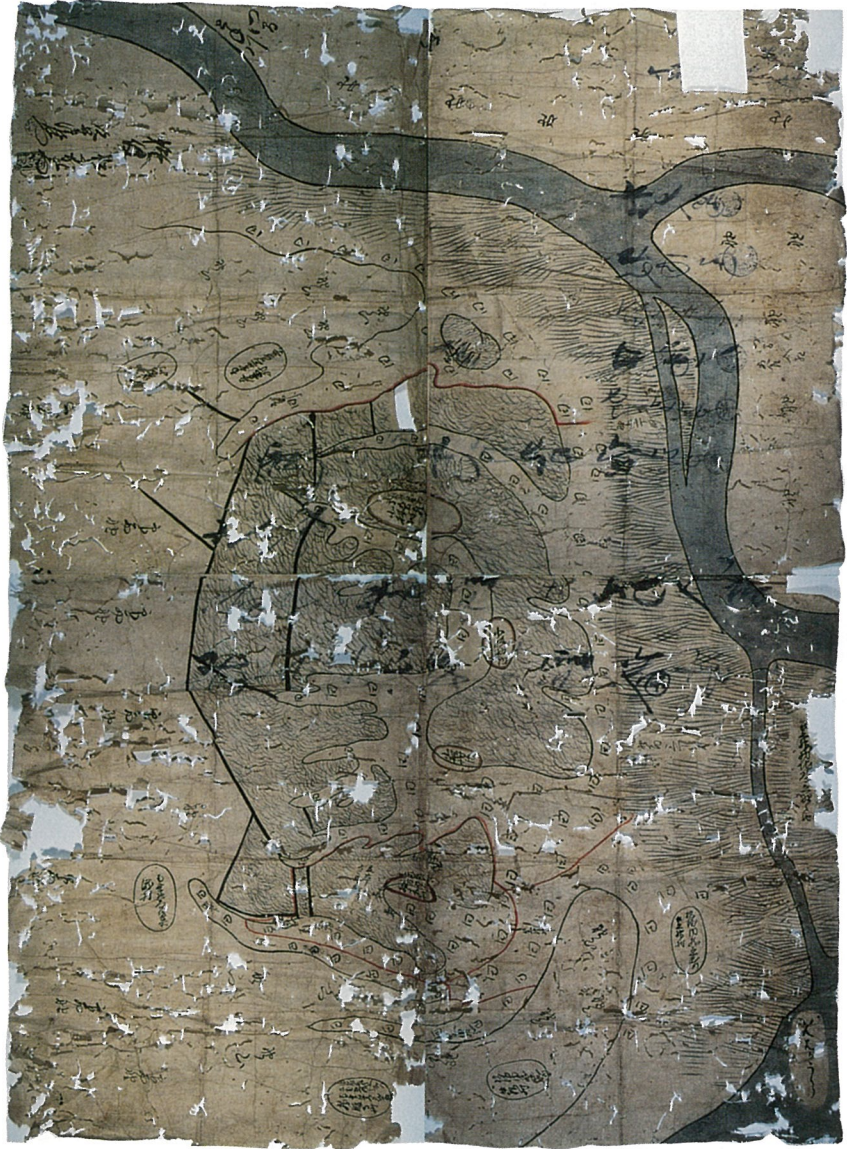


創刊号

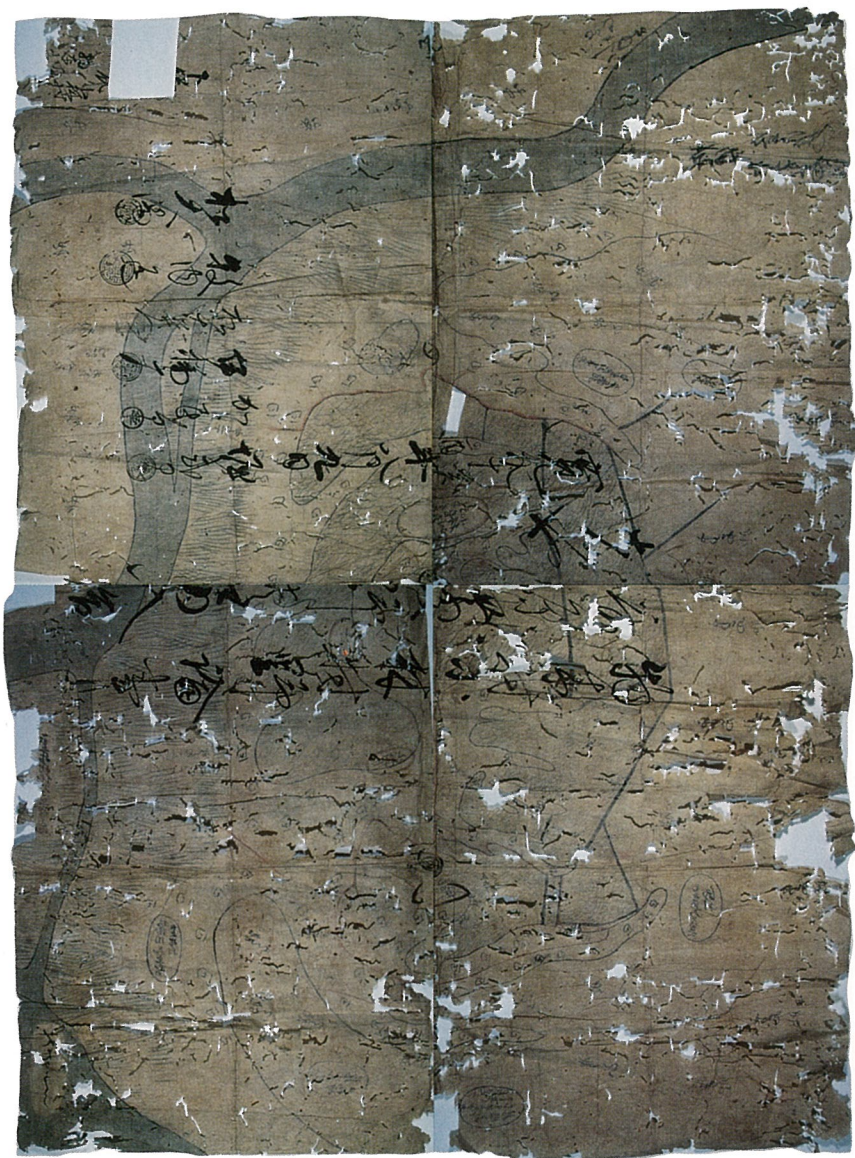
栄町の歴史

創刊号

野論裁許絵図（寛永10年）



(表)



(裏書)

篠原義範家文書

発刊のことば

栄町長 藤江 恭

水と緑の豊かな自然と恵まれた景観をもつ私たちのふるさと栄町は、原始・古代の時代から脈々とその歴史と伝統を伝え、発展して参りました。利根川、長門川、将監川の三河川と印旛沼に接し、古くから水運、治水あるいは水害と、常に自然とともに向き合い、歩んできた長い歴史と、この地に住み生活する人々の生活史がありました。

しかし、ここ数年は、首都圏の整備が進むなか栄町も大きく変貌しようとしています。昭和四〇年代後半に九千人程だった人口も現在は二万五千人に増え、今後ますます増えていくものと思われまます。これにともない栄町も急速に都市化が進み、都市基盤の整備、生活環境の改善、教育・文化の振興と、日に日に新しく生まれ変わり、成長しています。

このような状況のなか、失われつつある町の歴史・文化・伝統を詳細に調べ、記録に止め、後世に引き継ぐのは現在の私たちの使命であると考え、平成三年度より栄町史の編さん事業に本格的に取り組むことといたしました。

この事業は、原始・古代から現代まで続く長い歴史のなかで、この地に生活していた先人たちの足跡をたどり、郷土の歴史を正しく理解し、栄町をふるさととする皆様方の愛郷心を育み、これからの町の進むべき道を探る指針とすべく行うものです。

本誌は、町民の皆様に、自らのふるさとである栄町の歴史への理解をより深め、また投稿などにより、できるだけ多くの皆様に栄町史の編さんに参加・協力していただけることを願い、刊行するものです。これにより郷土の歴史・文化・自然をより身近に感じ、もっともっとふるさと栄町を好きになっていただけたら幸いと考えます。

終わりにあたり、本誌の刊行につき、資料提供、調査協力等何かと便宜を図っていただいた多くの皆様に改めてお礼申し上げます。今後とも栄町史編さん事業へのより一層のご協力をお願いし、発刊のことばといたします。

発刊のことば

——町内文化財保護対策の充実について——

栄町史編さん委員会会長 伊藤 義一

私たちの郷土栄町は、文化遺産の豊富なことで世間に知られています。沢山の古墳・龍角寺、それに岩屋古墳は余りに有名です。また、水と緑の三万都市を目標に開発整備が進められ、人口の急増発展の町として周辺町村の注目の的となっています。最近の科学・技術の進歩、経済の発展は、われわれの生活を一変させました。経済的に豊かな反面、いろいろの歪みも生じています。人々は安全と豊かさ、うるおいのある生活環境を求めています。そして自然を大切に、郷土を愛し歴史的文化的遺産を尊重する心のゆとりをもって、開発と発展に調和を求めています。

文化財の保護（町史編さん事業）という仕事は、開発と同時並行的に行われるべきであり、時期を失すれば、後の祭となりかねません。始めから大規模に取りかかるのも一方法ですが、開発途上においては、むしろ地道に出来るものから継続してやる方法がよいのではないかと考えられます。この仕事は、間口も広く仕事量も少なくありません。これは他市町村の例をみても片手間に片付けることはとても無理なことは明らかです。

このたび、町史編さん室が設置され、専門委員が委嘱され、具体的に事業が動き出した、その最初の刊行物として「栄町の歴史」が創刊されることは、誠に意義深いものと思います。今後とも関係各位におかれましては、町史編さん事業により収集された史（資）料を、町民の誰もが活用できるように体制の整備を行い、さらに後世の町民に伝えられるよう、ご尽力いただきますことをお願い申し上げます、発刊のことばといたします。

監修にあたって

国学院大学教授 大谷 貞夫

日本の歴史は、天皇や貴族・将軍や武士の歴史だけではありません。人々の住むところ、すべてにその土地の歴史があるのです。

今日、栄町域に生活する人々の中には、生まれながらにして住んでいる人もおり、またある時期に移り来て住んでいる人もおるわけです。この土地に生まれた人々は、ここがまさに「故郷」であり、移り住んだ人々の中には、第二や第三の「故郷」となっている人々もいるに違いありません。この地を「故郷」と感ずる人々が、時の経過とともに増えて行くことでしょう。

栄町域には利根川・長門川・将監川が流れ、印旛沼も存在していて、まさに水とのかかわりが大きいわけです。その水は用水となり、水田で稲作を行う上で欠くことのできない要素の一つにもなっています。また逆に洪水のために、人々の生活が危険にさらされたこともありました。また水は物資を運ぶ上で、重要な役割を果たした時期もありました。利根川と安食河岸があったからこそ、安食村が在町として発展してきたわけです。たしかに、鉄道の開通によって、川船は急に衰えて行ったのですが。

一方、台地上には古くから人々が住み、その住居の跡は至るところに残っています。旧石器時代・縄文時代から弥生時代・古墳時代を経て、歴史時代へと移り変わってきました。その時々すばらしい遺跡や遺構・遺物が沢山残されています。「房総風土記の丘」の古墳群もその一つですし、また龍角寺の仏像や礎石などもそうであります。

布鎌地区はいわゆる新田と呼ばれた新しい村で、江戸時代に成立しました。周辺地域から移り住んだ人々もおり、またるか離れた利根川の上流域から移り住んだ人々も多かったのです。

現在私たちは、栄町域の歴史がどのように移り変わってきたのかを調べており、町民の方々に話題を提供したいと思っ

ています。勿論日本全体の歴史の流れの中で、栄町域がどのようにかわり、歩んできたのか、それも地元に残された史料をもとに、まとめたいと考えています。

「古文書目録」も、その一里塚であり、また「史料集」もそのまた先の一里塚であります。最終的には「通史」として人々に愛読されるものをまとめたいと思っています。町民の方々のご理解とご協力のほどをお願いします。

平成五年三月

（以下は、非常に淡く、ほとんど不可読な文字が並ぶ。これは、元の画像の解像度や印刷の質によるもので、具体的な内容は判別できない。）

栄町の歴史——創刊号

目次

□ 発刊のことば

藤江 恭
伊藤 義一

□ 監修にあたって

大谷 貞夫

□ 研究論文

造佛の前後経緯

吉田 辰郎……………9

論所裁許の数量的考察—関東編—

山本 英二……………18

近世絵図研究のための試論

高橋 覚……………40

□ 史料紹介

多宝院・東光院に伝わる心蓮台図・十王図

植野 英夫……………55

□ 歴史随想

郷土酒直の歴史

石原 丈夫……………77

芝野正真・弘庵のこと

石井 光男……………79

□ 「広報さかえ」にみる

郷土に関する記事目次……………81

□ 栄町史編さん基本計画(抄)……………101

□ 町史編さんの記録(1)……………103

SAKAE MACHI NO REKISHI

The history of Sakae town

No. 1

March 1993

CONTENTS

GreetingsFUJIE Kyo (Mayor)
ITO Giichi (Chairman)

EditorialOTANI Sadao (Chief editor)

Articles

Background of the creation of Buddhist images
.....YOSHIDA Tatsuro

A study on charters from the quantitative point of view :
cases in Kanto districtYAMAMOTO Eiji

An essay in the study of early modern cartographic records
.....TAKAHASHI Satoru

Notes on Historical Materials

SHINRENDAI-ZU and JUO-ZU, preserved at the temples of
TAHOIN and TOKOINUENO Hideo

Essays of History

The history of SakanaoISHIHARA Takeo

A mathematician's of Japanese mathematician Shibano
Masanao and Dutch learning of Japanese doctor
Shibano KoanISHII Teruo

(List of) local news and reports appeared in the public
information brochure of Sakae town.

Outline of the history compilation project

Progress of the project (I)

SAKAE MACHI

(Sakae Town History Compilation Committee)

栄町史編さん委員会委員

会 長 伊藤 義一

副会長 塩田 重治

(監修者) 大谷 貞夫

阿由葉 司

小川 守

後藤 肇

高塚 馨

日暮 和代

山本 正司

編集後記

町史編さん室が、平成三年四月一日に設置されて二年になるうと
ています。「広報さかえ」三五四号(平成四年二月一日)で、町史
編さん事業の概要についてご紹介したところですが、辺引の石井さん、
酒直の石原さんの投稿もありまして漸く、最初の刊行物を上梓するこ
とができました。関係各位に対して厚く御礼申し上げます。

さて、今回は調査の最も進捗している文化財社寺部会・近世部会の
専門委員の方々に執筆をお願いしました。

吉田氏には、仏・神像について、植野氏には、工芸品(什物)など
を中心に全般的な調査をお願いしています。また、高橋氏には、江戸
時代の古文書について、山本氏には、夏季に実施した合宿調査の際に、
栄町古文書調査会長として御尽力いただきました。そこで、これらの
調査の過程で見えられた史資料について、また関連することがらにつ
いて論じ、紹介いただきました。

そして、『広報さかえ 縮刷版第2巻』が平成五年三月に刊行され
るのを機会に、活用の利便性のため、特に郷土に関する項目をリスト
アップしてみました。ふるさとの文化財、ふるさと再見、栄町の歴史
をさぐる、先人たちの足跡の各シリーズが中心です。改めて「広報さ
かえ」のデータ利用価値の高さに再認識しました。

これからもこのような本を作成していきますので、史資料調査の際
には、皆さまのご理解ご協力をお願いいたします。

【表紙の窓】第24回日展（一九九二） 湖畔 小川比呂ひろ

栄町脇川にお住いで、本格的に絵画を始められたのは退職されてからのことだそうです。八四年に千葉市展において千葉テレビ放送賞を受賞され、その後八八年に光風会展初入選、九一年には日展入選とご活躍中です。特に印旛沼周辺で見ることのできる風物である漁具「網かぢ」を画題とされ注目されています。

【口絵解説】

寛永一〇年八月九日（物木村・小林村野論裁許絵図）

本埜村物木・篠原義範氏提供

『本埜村史 史料集近世編四』（昭和五八年一月）本埜村・本埜村史編さん委員会編集発行に模写図が掲載されているので参照されたい。また、小倉博氏の解説に「本絵図は印西地方を描いた最古の地図ともいべきもので、埜原新田や布鎌新田が開発される以前の様子」がわかる貴重な史料であると紹介されている。

事実、のちに布鎌新田として成立していく位置付近の利根川中に、「野」「門間」「安食入相」と記述がある。このことから、既に洲島化が進んでいて、文間村（利根町布川）と安食村の入会野であったことが確認できる初見史料である。

なお、本書掲載の山本英二氏「論所裁許の数量的考察―関東編―」で本絵図の詳細な分析がなされている。

栄町の歴史——創刊号

平成五年三月三十一日 発行

編集 栄町史編さん委員会

発行 栄町

〒二七〇一五

千葉県印旛郡栄町安食台一―二

TEL 〇四七六（九五）二二―

印刷 第一法規出版株式会社

東京都港区南青山二―十一―十七